



人権通信

2022年度 第2号

城/内中等教育学校・高等学校 人権委員会
レベラス部



こんにちは、人権委員会です。先日は日本列島に今季一番の寒気が流れ込み、徳島市でも初雪を観測しました。寒い日が続きますが、もう少しすると、クリスマスやお正月など、皆さんが楽しみにしているイベントが続きます。くれぐれも体調には気をつけてください。

さて、今回の担当は62・63・65ホームルームの人権委員の皆さんです。

人権通信の原稿を書くにあたり、改めて人権について考えてみた。私が思う人権とは、人間が人間らしく生きる上で最も重要な権利である。

私たちは小学生の頃から人権について学んできたが、一方で身の回りの人権問題に対してどう関わってきたのだろうか。心の中ではいけないことだと分かっているながらもなかなか勇気が出ず、間違っていると見えなかったこともあるのではないだろうか。

私は、誰もが幸せに生活できるように、間違いを正すことができる勇気を持ちたい。少しずつでも世の中を変えていく手伝いをしたい。

このように一人一人が意識することで、初めて人権というものが成り立ち、かつ守られるのではないだろうか。今後の人権学習にも他人事と思うことなく、主体的に取り組んでいきたい。

私たちは、「人権とは何か」ということについて考えてみました。

まず、担任の先生にお伺いしてみることにしました。そうすると、「存在を認められること」とのお答えをいただきました。しかし、副担任の先生にお伺いしたところ、逆に「あなたたち自身はどう考えているのか?」との問いをなげかけられました。

そこで、私たちは人権について、インターネットで調べてみることにしました。そうすると、「他の人の気持ちを考えながら、思いやりを持って自分らしく生きていくこと」と出てきました。

そこから私たちは、人権についてお互いに意見を出し合いました。そうすると「自分は他の人のことを考え、周りも自分のことを考えてくれること」「人間が生きていくために必要な権利」といった意見が出てきました。どの答えも「なるほど」と思えるものでした。

出た意見をまとめると、人権とは「すべての人にとって、自分らしく生きるために必要なもの」であり、それを実現するためには「他の人のことを考える」と同時に、「自分自身を大切にすること」が大事だということになりました。そうすることで、「互いの存在を認めあう」ことにより、自らの「パーソナリティ」や「アイデンティティ」を確立することができ、自分らしく生きることにつながるのではないかと考えました。

最後に、担任の先生からは、「12月、長く感じるかもしれないが頑張ろう」「3月、間違ってもやり直しはきく」「生きていく上で今までやってきたことは、必ず経験として蓄積されている。だから、いつか必ず報われる」といった励ましの言葉をいただきました。この言葉を胸に、受験に向けて頑張っていきたいと思います。

私の祖母の口癖は「ちゃんと勉強しよ」です。最初の頃は耳障りの悪い言葉だと感じていましたが、祖母の気持ちを知ったとき、胸がしめつけられるような思いがしました。

祖母は小さい頃、四人兄弟の長女ということもあり、勉強したくてもなかなかできなかったと聞きました。祖母は文字の読み書きはできましたが、友人の中にはできない人もいたそうです。当時は文字の読み書きができない人がいるのは決して珍しいことではなかったと聞きました。

今の私には、勉強できる環境がすぐそこにあります。ですが、このことは決して「当たり前」のことではありません。世界には「勉強したくてもできない子ども」がたくさんいますし、日本にもいます。学校に通い、当たり前のように勉強ができる環境にいるということは、奇跡に近いことかもしれません。私たちは、勉強できることに対する感謝と喜びを、もう一度思い出す必要があるかもしれないと思います。

62・63・65ホームルームの人権委員の皆さんの意見はどうでしたか?

生徒の皆さんも、この機会に人権問題について考えたり、家族と話したりしてみてください。

この人権通信が、人権について考えるきっかけになればと思います。

